

# 第 8 期 総 会 資 料

## 目 次

1	平成20年度 事業報告	1
	第1部 事業概要	1
	第2部 会計報告及び会計監査報告	32
2	平成21年度 事業計画(案)	37
3	平成21年度 予算(案)	52
4	一部理事改選の件	53
5	「システム監査これからの10年」提言・要望事項 への対応状況と今後の取組み計画	54



特定非営利活動法人  
日本システム監査人協会

# 平成20年度 事業報告

## 第1部 事業概要

### I. 本 部

#### 1. 全般概要

##### (1) 会員の状況（平成20年12月末現在）

正会員・個人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 999名

正会員・団体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34社

賛助会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0社

入会申込は個人52名、法人1社と順調であるが、退職などによる退会者が上回り、今年度は個人会員1000名を維持できなかった。

会員の種類については、賛助会員制度を存続しているが、NPO法人の趣旨から正会員としての入会をお勧めしているのが現状である。

なお、地方会員の組織として北海道・東北・中部・北信越・近畿・中四国・九州の7支部がある。また東京都中央区に本部の事務所を置いてある。

##### (2) 理事会等の本部活動状況

#### 理事会の活動

開催 1/10, 2/7, 3/13, 4/10, 5/8, 6/12, 7/10, 9/11, 10/9, 11/13, 12/12

理事会は、当協会の活動の原点であり、活動の諸案件が毎回活発に議論され審議・決定されてきた。その議事録は会員メーリングリストで報告し、会報に掲載したとおりである。

今期は、特定非営利活動法人（NPO法人）になっての第7期であり、任意団体創立からみると、第21期（協会の創立は、昭和62年(1987)12月である。）であり、創立20周年記念事業行事が本部・各支部で実施された。

#### 研究会等の活動（詳細は別項）

##### 月例研究会

月例研究会(沼野伸生主査)は、システム監査に関係ある時代の動向を先取りした主題で講演会を設営し、今期は9回で917名（前年比129名減：平均参加者数102名）の参加を頂いた。

##### システム監査事例研究会

理論を監査の実践の場に生かすシステム監査事例研究会(吉田裕孝主査)のシステム監査実務セミナー2回、内部統制セミナー5回の開催がされた。また、システム監査普及サービスとしてh社の監査を実施した。

##### システム監査基準研究会

システム監査基準研究会(松枝憲司主査)は、18～19年度の作業成果を「J-SOX対応IT統制監査実践マニュアル」として、工業調査会より2月に出版した。

## 会報・広報・事務局活動等

定例の活動については、各研究会、分科会を含めて別に具体的報告がある。ここでは特記事項のみをまとめて報告する。

会員に対するコミュニケーションの最大の手段として「**日本システム監査人協会報**」（竹下和孝主査）を発行している。今期は協会の20周年記念イベントを本部、各支部で開催し、今後の監査活動に関するアンケートを実施した。会報ではアンケートの集計分析の結果報告、および、全国で開催する20周年記念行事の様子を順次、特集した。なお、会報発行も100号の節目を迎え、活躍するCSA活動など、記念特集を組んだ。

また、**法人部会**（小野修一主査）は、定例部会を月1回実施し、会員企業同士でシステム監査を中心とした情報交換を行うとともに、「地方自治体向け情報セキュリティセミナー」を3回（富山県、東京都昭島市、東京都清瀬市）した。

「**CSA利用推進**」（力利則主査）は、CSAの交流の場として「CSAフォーラム」を立ち上げ、9月、11月に「CSAフォーラム」を開催した。

**事務局**（馬場事務局長、金子副事務局長）は、新会員管理システムを稼働させるなど事務局の整備を図り、事務局作業の平準化、効率化のための対策を講じた。

### （3）公認システム監査人、システム監査人補の認定

#### ① 認定登録の状況

7年目の公認システム監査人及びシステム監査人補の認定は以下のとおり行うことが出来た。公認システム監査人は春季11名、秋季28名、システム監査人補は春季15名、秋季25名で合計79名の方々の認定が終了した。

その結果、累計では**公認システム監査人が433名、システム監査人補が277名**、あわせて**総勢710名の資質の継続・維持・向上も担保されたシステム監査人が認定登録**されたことになる。

今回も認定業務では、面接業務（鈴木信夫主査）が審査として重要な役割を担い、東京地区の他に大阪（2回）、名古屋（2回）、仙台、富山、広島、福岡の支部所在都市でも行われた。それぞれ原則として土曜日に実施し面接委員は1組2名であった。

#### ② 認定更新の状況

平成16年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の方々の認定更新に際し、公認システム監査人10名、システム監査人補33名の方々が失効となった。その結果、前記①に記載のとおり累計710名の陣容となっている。

平成14年度、平成17年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の方々については、昨年すなわち平成20年の年末に認定期限が到来したが、この認定更新時期を1月末と変更し、現在更新認定作業中である。

### ③ 継続教育実績申告書

第6回の継続教育実績の申告を1月末まで受付し、目下審査、集計中である。

### ④ 特別認定講習実施状況

教育研修委員会(鈴木実主査)の別項の報告のとおり、実施機関2社の合計30回延べ70名の講習が実施された。

## 2. 教育研修委員会

本年度も前年同様、特別講習認定機関に委託により会のコースを実施した。

### (1) 論文・プレゼンテーションコース(1日コース)

実施回数： 東京12回、大阪1回 計13回

実施時期： 1月1回、2月1回、3月1回、5月1回、6月2回、7月2回、8月1回、  
9月2回、11月1回、12月1回

受講者： 26名 (前年度実績 8回 受講者 25名)

### (2) システム監査に関する知識コース(2日コース)

実施回数： 東京10回、大阪2回 計14回

実施時期： 1月2回、2月1回、3月1回、5月1回、3月1回、6月1回、  
7月2回、8月1回、9月2回、11月1回、12月1回

受講者： 35名 (前年度実績 9回 受講者 32名)

### (3) 情報システムに関する知識コース

実施回数： 東京2回、大阪1回 計3回

実施時期： 7月1回、8月1回、10月1回

受講者： 9名 (前年度実績 1回 受講者 3名)

### (4) 特別講習実施機関および実施回数

・(有) インターゲデオン 1日コース10回、2日コース13回 計23回

・情報システム監査(株) 1日コース3回、2日コース4回 計7回

合計 30回、受講者延べ 70名

(前年度実績 1日コース7回、2日コース11回

合計 15回、受講者延べ 60名)

### (5) コース運営管理について

・各コースともに採点結果を、事務局で評価した。特に問題の発生はなく、本年度は再テストも発生しなかった。

## 3. 会報

### (1) 概要

会報部会では、年6回の会報誌の定期発行を通じて、会員相互のコミュニケーション向上を図っています。今回は特に、今後の10年についてアンケート

を実施、分析・編集の記事をきっかけとした会員との交流、各地で開催された20周年記念講演の紹介を通じて、会員活動を広く情報発信した。

また、各種研修会参加者からの受講報告も増えてきている。

#### 2008年度会報担当委員

竹下和孝（主査）、吉田裕孝、仲 厚吉、桜井由美子、成 楽秀、片岡 学  
木村陽一、須田 勉、藤野明夫、山田正寛

今年は、会報誌を配送する業者による送付手続の変更、および担当者の変更などにより、送付準備のために想定以上に日数を要してしまい、配送および到着日が遅れ気味になってしまいました。

会員の皆様にも、住所変更後や勤務先の変更時には、事務局への速やかに連絡変更をいただくなど、ご協力をお願いいたします。

### （2）2008年に発行した会報の内容

号数	発行月	編集担当	主な記事
100号	2008.1	須田 吉田、竹下	(特集)巻頭インタビュー、これからアンケート速報 韓国電子政府の最新事情と電子政府法
101号	2008.4	富山 竹下	(特集1)20周年記念講演・総会 (特集2)これからアンケート
102号	2008.6	竹下	(特集1)CSA活動紹介、(特集2)SAAJ紹介
103号	2008.8	竹下	(特集)九州支部報告(20周年記念講演)
104号	2008.10	竹下、仲、 須田	(特集)近畿支部報告(20周年記念講演) 中四国支部報告(20周年記念講演)
105号	2008.10	竹下、成	(特集)東北支部報告

### （3）2008年の投稿論文

当年には応募がなかった。

## 4. 月例研究会

平成 20 年度は、以下の通り年間 9 回の研究会（例年通り）を実施した。

回目	開催月日／場所	テーマ／講師	参加人数
135	1月22日（火） 総評会館	テーマ：「日本システム監査人協会編 J-SOX 対応 I T 統制監査実践マニュアル紹介」 講師：日本システム監査人協会 理事、 システム監査基 準研究会主査 株式会社ビジネスソリューション（BSC） 代表取締役 松枝 憲司 氏	186
136	5月30日（金） 総評会館	テーマ：「最新のフォレンジック動向とシステム監査での 考慮点」 講師：社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 技術顧問 ネット情報セキュリティ研究会 技術調査部長 NPO デジタル・フォレンジック研究会 理事 萩原 栄幸 氏	94
137	6月25日（水） 総評会館	テーマ：「進化する千葉県市川市 IT サービスの概要 （自治体 IT ガバナンスランキング首位）」 講師：千葉県市川市情報統括監（CIO） 井堀 幹夫 氏	85
138	7月29日（火） 総評会館	テーマ：「株式会社サウンドハウスにおける個人情報漏洩 事件と対応」 講師：株式会社サウンドハウス 代表取締役社長 中島 尚彦 氏	135
139	8月25日（月） 総評会館	テーマ：「I T 経営の実現に向けて ～ I T 経営協議会 と I T 経営憲章」 講師：経済産業省商務情報政策局情報政策課 企画官 平井 淳生 氏	106
140	9月25日（木） 総評会館	テーマ：「C I O とガバナンス」 講師：早稲田大学大学院国際情報通信研究科 教授 小尾 敏夫 氏	82
141	10月29日（水） 総評会館	テーマ：「郵便局株式会社における S a a S 活用の概況に ついて」 講師：郵便局株式会社 本社 システム企画部担当部長 石塚真由美 氏	85
142	11月25日（火）	テーマ：「情報大航海時代の到来ーリアルとネットを結ぶ	65

回目	開催月日／場所	テーマ／講師	参加人数
	総評会館	知的情報アクセス基盤ー」 講師：慶應義塾大学 環境情報学部 教授 小川克彦 氏	
143	12月11日（木） 総評会館	テーマ：「経済産業省の情報セキュリティガバナンス構想」 講師：経済産業省 商務情報政策局 情報セキュリティ政策室 課長補佐 清水 友晴 氏	78

- 年間の開催回数は9回（前年比1回増）、総参加者数は916名（前年比130名減）で、各回の平均参加者数は102名（前年比29名減）であった。参加者人数は前年に比し減少している。引き続きホットなテーマ、幅広い講師招聘をすすめ、多くの会員等の期待に応えていきたい。
- また、参加者の内、当協会の会員以外の方の割合が約35%（前年比2%減）となった。
- 当協会の月例研究会が、協会以外の方々からも引き続き注目され、今年も毎回多くの方々にご参加頂いた。
- 講師の方の所属は、中央官庁が2名、自治体が1名、民間企業・団体が3名、大学教員が2名、当協会会員が1名であった。これはほぼ予定通りのバランスであった。
- 昨年度、はじめてテーマ／招聘講師について会員の希望を聞く機会を作った。今年度はその結果を反映し、民間企業・団体の講師、テーマを前年度より多くするなど、頂いた希望をテーマ、講師選定に反映した。
- 各支部へ配付している録画ビデオは、各支部主催の研究会等でこれまで以上に積極的に活用されている。
- 引き続き受付に定期的に学生アルバイトを配置し、多くの参加者のスムーズな受付業務を心がけている。

## 5. 法人部会

### (1) 法人正会員 34社 (平成20年末現在)

入会 次の1団体

- ・日本公認システム監査人有限責任事業組合

退会 2社

### (2) 活動内容

- ①定例部会を月1回開催した。
- ②法人正会員の増強を図るべく、次のところに入会案内のDMを送付した。
  - ・平成20年度システム監査企業台帳登録企業
- ③「自治体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、20年度版として案内した。
  - ・セミナー案内のDMを、関東地区の市以上および全国都道府県に送付した。
  - ・当協会のホームページで広報活動を行った。
  - ・FISA（情報システム・ユーザ会連盟）主催のシステム監査講演会（2008/10/21開催）で、案内チラシを配布した。
- ④「自治体向け情報セキュリティセミナー」の依頼を受け、実施した。講師は、法人部会メンバーが務めた。
  - ・東京都昭島市様（2008/1/21、1/31）、参加者約240名
  - ・富山県様（2008/8/27）、参加者約250名
  - ・東京都清瀬市様（2008/9/30、10/29）、参加者約80名
- ⑤「自治体向け情報セキュリティセミナー」のコンテンツについてレビュー・見直しを行った。
- ⑥「システム監査これからの10年」で発表した10の提言のうちいくつかについて、法人部会でも討議を行い、20周年プロジェクトにインプットした。
- ⑦会員同士のシステム監査の普及・ビジネス化についての情報交換を行った。



## 6. CSA利用推進

### (1) 活動の概要

- ・CSA利用推進の取組みは本年度で3年目に入り、担当理事と支援メンバー約10名による会合を行うとともに、CSAの皆様のフェイスTOフェイスの相互研鑽、情報共有、議論の場としてCSAフォーラムを新しく立ち上げた。一昨年度および昨年度に取組んできたCSAパンフレットやCSA認定カード、CSAを入札条件に入れる依頼文の周知、CSA関連サイトの充実等については継続的に推進している。
- ・CSAフォーラムは、CSA（ASA含む）約百数十名の事前登録者を対象に、9月と11月に“CSAフォーラム”を開催し、各回とも30数名の参加者に集まっていた。実践的なテーマと報告により参加者にとって有益なフォーラムが実現でき、フェイスTOフェイスの交流が進んだ。

### (2) 活動の目的

- ・“CSAのプレゼンスを高める。社会的な評価や価値を高める。社会的な認知度を上げる。CSAになって良かったと思ってもらえる。CSA認定の付加価値を高める。CSA自身の役に立つ（社会的に認められる。活動がしやすくなる）”ということを活動の目的としている。
- ・今年度はCSAの皆様との交流を広げることを第1の活動目的とした。

### (3) CSAフォーラム活動

- ・CSA認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイスTOフェイスの意見交換の場として、“CSAフォーラム”を新規に立ち上げた。7月にCSA（ASA含む）認定取得者全員に募集案内を出し、事前登録者約百数十名の登録があり、関心の高さがうかがえた。事前登録者に対して、9月と11月に“CSAフォーラム”を開催し、各回とも30数名の参加者を得ることができた。これからも隔月に1回程度の開催を行っていく。
- ・第1回は「CSAの成功法則」（9/30 竹下和孝氏報告）というテーマで、CSAの活動をもとに新しいタイプの監査人（歓びを作る人）として稼働を始めた“目標達成と喜業の秘訣”についての報告と意見交換を行った。
- ・第2回は「CSAに求められる新たな役割」（11/26 三谷慶一郎氏報告）というテーマで、企業が健全なITマネジメントを行なうためには、“効果創出”“コスト適正化”“リスク低減”、3つの側面から従来のシステム監査の枠を超えたCSAが担うべき役割についての報告と意見交換を行った。

## 7. システム監査事例研究会

(1) 研究会メンバー : 109名 (2008年12月現在)

### (2) 月例研究会開催

定例会 毎月第一水曜日 18:30~20:30

12回開催 延べ出席者数 159名

内容

- ・講師による講演及び関連事項の討議
- ・システム監査普及サービス進捗状況報告
- ・システム監査実務・実践セミナーの運営に関する打ち合わせ
- ・公認システム監査人の教育制度に関する打ち合わせ

### (3) システム監査普及サービス

h社 (銀行業)

期間: 2007年8月1日から2008年2月13日 (監査報告会)

監査チーム: 太田香リーダ他6名

監査テーマ: 金融情報システムセンター基準 (FISC) に基づく  
システムの信頼性・安全性・遵守性の監査

### (4) システム監査実務・実践セミナー

- ・本年も、当初の予定通り、4日間コースを2回開催し、1996年から実践・実務セミナーは通算31回の開催実績となった。
- ・実務セミナー4日間コースは、2002年から開始し通算12回目となり、公認システム監査人の教育制度の一環として定着してきている。
- ・実践セミナー2日間コースは、今年度開催実績はない。

#### ①第30回 (第11回実務セミナー4日間コース)

日時: 2月9日 10:00~10日、

2月23日~24日 15:00

場所: 千葉市幕張 海外職業訓練センター (OVTA)

参加者: 受講生11名、講師4名

#### ②第31回 (第12回実務セミナー4日間コース)

日時: 9月6日 10:00~7日

9月20~21日 15:00

場所: 千葉市幕張 海外職業訓練センター (OVTA)

参加者: 受講生9名、講師3名

### (5) 内部統制セミナー

- ・ J-SOX 法に基づき、上場会社で構築、整備された I T の内部統制を、独立し客観的な立場で監査する監査人養成を目的として、2007 年 4 回開催したセミナーを平日 3 日間コースに拡張し、IT の全般統制に焦点をあてた実践的内容で、本年 5 回開催した。システム監査実践・実務セミナー同様、協会主催で継続開催ができるセミナーとして定着させて行きたい。

**① 第 5 回内部統制セミナー 3 日間コース**

日時：1 月 28 日 10:00～30 日 17:00

場所：東京都千代田区 総評会館

参加者：受講生 10 名、講師 3 名

**② 第 6 回内部統制セミナー 3 日間コース**

日時：3 月 17 日 10:00～19 日 17:00

場所：東京都千代田区 総評会館

参加者：受講生 9 名、講師 3 名

**③ 第 7 回内部統制セミナー 3 日間コース**

日時：5 月 26 日 10:00～28 日 17:00

場所：東京都千代田区 総評会館

参加者：受講生 9 名、講師 3 名

**④ 第 8 回内部統制セミナー 3 日間コース**

日時：7 月 28 日 10:00～30 日 17:00

場所：東京都千代田区 総評会館

参加者：受講生 7 名、講師 3 名

**⑤ 第 9 回内部統制セミナー 3 日間コース**

日時：10 月 29 日 10:00～31 日 17:00

場所：東京都千代田区 総評会館

参加者：受講生 6 名、講師 2 名

## 8. 情報セキュリティ監査研究会

### (1) 平成20年研究会研究項目

- ①情報セキュリティ監査基準の監査に関する情報・ノウハウの共有  
『情報セキュリティ監査のためのリスクの洗い出し  
およびその分析、監査における監査ツールの利用』の一般化、普及

### (2) 活動結果

ツールのコメントの見直し、充実化を図ることを引き続きの課題とした。  
某情報セキュリティ監査の実例を参考に、リスクとその対応方法を検討し、  
ツールの材料とする検討を進めた。

ノウハウの共有として、赤本に掲載した「基準ツール」の充実を図ること  
と、当研究会以外で試行してもらうことも意識したものである。

### (3) 検討の経過

- ① “情報セキュリティ監査を効果的にはどうやるか” を課題としている。基本  
となる “リスクを洗い出す方法” については、情報取扱いのフロー（\*）に  
基づくリスクアセスメントの手法により引き続きを検討している。  
（\*）業務フローとは、オペレーションフロー、システムフロー、ワークフローなどをいう。
- ②実際の情報セキュリティ監査監査結果を参考に、リスクの洗い出しとその対  
応方法を検討した。

## 9. システム監査基準研究会

### (1) 研究項目

- ① SAAJ システム管理基準体系

### (2) 研究会項目

- ・18～19年度の作業成果を「J-SOX 対応 I T 統制監査実践マニュアル」とし  
て、工業調査会より2月に出版した。
  - ・「システム監査これからの10年」の提言・要望事項を受けて、以下の項目に  
取り組んだ。
- ①システム監査基準を有効活用するための情報提供機能の強化  
成果物：「オフショア開発のためのシステム管理基準」（中部支部主体）
  - ② システム管理基準のシステム現場への普及  
J-SOX 対応以外において、システム管理基準を普及させるために、COBIT 4.1  
とシステム管理基準のマッピング作業中
  - ③システム監査の視点の整理、特に有効性

各団体等が出されている見解を収集・整理した。

### (3) 定例研究会

・定例研究会は、原則月1回開催した。

## 10. 個人情報保護監査研究会

システム監査人の活動分野の一つとして、新JIS規格に対応した個人情報保護マネジメントシステムの構築・推進および個人情報保護監査を担える人材の育成と活動の場を確保すべく研究を行った。

### (1) 「個人情報保護マネジメントシステム構築のための実務者養成セミナー」の開催

後援 (財)日本情報処理開発協会／(社)日本印刷産業連合会／(社)日本グラフィックサービス工業会／(財)日本データ通信協会／(社)コンピュータソフトウェア協会／(社)情報サービス産業協会／(社)全国学習塾協会／(社)全日本冠婚葬祭互助会／(社)日本情報システム・ユーザー協会／(財)関西情報・産業活性化センター／(財)くまもとテクノ産業財団／NPO 法人みちのく情報セキュリティ推進機構／ISACA(情報システムコントロール協会)東京支部／NPO 法人ITコーディネータ協会  
・4月18日 25名参加

### (2) 個人情報保護マネジメントシステムに関する提案・提言・研究

必要の都度、討議。

## 11. 20周年記念事業プロジェクト

「システム監査、これからの10年」をスローガンとして、当協会発足20周年記念事業を実施した。記念講演会、書籍出版等を通じ、システム監査およびSAAJのプレゼンス向上について十分な成果が上がったと認識している。ご協力いただいた関係諸氏には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

### (1) 20周年記念講演会

システム監査の現状と未来について情報発信と意見交換を行なう場として、20周年記念講演会を実施した。講演会は、東京主催のみならず、全支部主催を含め合計8回開催した。日頃の協会活動の成果を公開するという意味でも、絶好の機会になったと考えている。

主催	講演・活動報告等	開催日	開催場所
本部	日本公認会計士協会 会長 増田宏一氏／東京証券取引所 常務取締役 鈴木義伯氏／SAAJ小野副会長／SAAJ竹下副会長	2月18日	東京都 総評会館
九州支部	佐賀県最高情報統括監 川島宏一氏／日本大学 堀江正之氏／SAAJ小野副会長／SAAJ福田九州支部長	5月17日	福岡市 八重洲博多ビル
近畿支部	レンゴー 取締役常務執行役員 稲葉貴氏／日本大学 堀江正之氏／SAAJ小野副会長／レンゴー 情報システム部長 篠崎良介氏／トーマツ パートナー 丸山満彦氏／SAAJ近畿支部中谷氏	7月12日	大阪市 学校法人常翔学園
北海道支部	マイクロネット 執行役員研究企画部長 酒井雅裕氏／札幌大学 八鍬幸信氏／SAAJ五十嵐北海道支部副支部長／SAAJ小野副会長	8月2日	札幌市 かでる2.7
中四国支部	フレスタ 経営企画室部長 西村隆氏／SAAJ中四国支部佐藤氏／日本大学 堀江正之氏／SAAJ小野副会長	8月30日	広島市 広島県立生涯学習センター
東北支部	SAAJ福田九州支部長／日本大学 堀江正之氏／東北大学 成田由加里氏／SAAJ小野副会長	10月25日	仙台市 ハーネル仙台
中部支部	トヨタ自動車 常務取締役 辻晶仁氏／日本大学 堀江正之氏／SAAJ小野副会長／SAAJ田中部支部長	11月15日	名古屋市 今池ガスビル
北信越支部	城西国際大学 櫻井通春氏／SAAJ三谷副会長／SAAJ大石氏／SAAJ森北信越支部長／SAAJ北信越支部宮本氏	11月15日	富山市 富山駅ビルエスタ

## (2) 20周年記念出版

20周年記念出版事業として、2008年2月に株式会社工業調査会から、「J-SOX 対応 IT統制監査実践マニュアル」を発刊した。本書籍は、システム監査基準研究会活動成果を元にしたもので、「IT統制」に関する理解を深め、企業における実際のIT統制監査に役立ててもらうことを目的としたものである。

## (3) システム監査ビジョンの提言

システム監査の将来に対する当協会のビジョンを検討し、「システム監査のこれからの10年を考える」という報告書として取りまとめた。これは、当協会および関係諸団体会員等を対象としたアンケート調査の結果を元に、20周年記念事業プロジェクト、法人部会、理事会等の場におけるディスカッションを経て、10の提言として整理されたものである。当報告書は、前述の20周年記念講演会で発表され、現在はSAAJホームページで公開されている。

## II. 北海道支部

### 1. 第7回支部総会実施

日 時：12月3日(水) 18:30～20:00

内 容：2008 年活動報告， 2009 年活動計画，  
2009 年役員選出， 2009 年研究会・勉強会計画，  
2008 年会計報告および 2009 年会計予算について

参加者：参加 7 名、委任 11 名

## 2. 定例研究会・勉強会実施

- (1) 第 1 回研究会：日時：1 月 18 日(金) 18:30～20:30  
テーマ：「ITIL の基礎～ITIL Foundation 資格取得研修フィードバック～」  
－ITIL Foundation 資格取得を通じた研究とディスカッション－  
参加者：12 名、うち支部員 11 名
- (2) 第 1 回 V T R 勉強会：日時：2 月 18 日(月) 18:30～20:30  
テーマ：「はじめての内部統制 ～どこまでやるの IT 全般統制～」  
－第 131 回研究会のビデオ上映とディスカッション－  
参加者：10 名、うち支部員 10 名
- (3) 第 2 回 V T R 勉強会：日時：4 月 17 日(木) 18:30～20:30  
テーマ：「日本システム監査人協会編 J-SOX 対応 I T 統制監査実践マニュアル紹介」  
－第 135 回研究会のビデオ上映とディスカッション－  
参加者：7 名、うち支部員 5 名
- (4) 第 2 回研究会：日時：5 月 22 日(木) 18:30～20:30  
テーマ：「金融機関のシステム統合 ～セキュリティと品質管理の視点から」  
－金融機関のシステム統合の実務を通じた研究発表とディスカッション－  
参加者：8 名、うち支部員 7 名
- (5) 第 3 回 V T R 勉強会：日時：6 月 29 日(金) 18:30～20:30  
テーマ：「経済産業省”システム管理基準追補版(財務報告に係る IT 統制がイ  
ンス)”の解説」  
－第 130 回研究会のビデオ上映とディスカッション－  
参加者：10 名、うち支部員 6 名
- (6) 第 4 回 V T R 勉強会：日時：8 月 29 日(金) 18:30～20:30  
テーマ：「進化する千葉県市川市 IT サービスの概要(自治体 IT がバナンランキング  
首位)」  
－第 137 回研究会のビデオ上映とディスカッション－  
参加者：11 名、うち支部員 7 名
- (7) 第 3 回研究会：日時：9 月 29 日(月) 18:30～20:30  
テーマ：「システム監査基準と情報セキュリティ監査基準」－システム監  
査基準と情報セキュリティ監査基準の研究発表とディスカッション－  
参加者：8 名、うち支部員 8 名
- (8) 第 5 回 V T R 勉強会：日時：10 月 27 日(月) 18:30～20:30  
テーマ：「株式会社サウンドハウスにおける個人情報漏洩事件と対応」  
－第 138 回研究会のビデオ上映とディスカッション－  
参加者：4 名、うち支部員 4 名

(9) 第4回研究会：日時：11月19日(水) 18:30～20:30

テーマ：「システム内製の現場から」ーシステム内製職場の紹介とディスカッションー

参加者：9名、うち支部員7名

### 3. 広報活動

支部活動について対外的に広報、および支部員勧誘を行った。

- ・他団体との交流：北海道ITコーディネータ協議会、日本システムアナリスト協会北海道支部、および社団法人 中小企業診断協会北海道支部との講演会共催、勉強会の相互開放
- ・支部員の変動：2007年度 個人会員29名、法人会員1名  
2008年度 個人会員26名、法人会員2名
- ・支部活動への参加：上記個人会員以外に法人会員2社から3名、非会員6名、他支部3名および本部1名参加
- ・公認システム監査人4名、システム監査人補5名（計9名中支部員8名）

### 4. メーリング・リストによる連絡

- ・支部メーリング・リストにより、支部員間の連絡および情報交換を実施している。

### 5. ホームページによる情報発信

- ・協会のホームページの支部のコーナーに、北海道支部の情報を記載している。

### 6. 20周年記念講演会

日時：8月2日(土) 14:00～18:00

会場：かでる2・7（北海道立道民活動センター）札幌市中央区北1西7

テーマ：「システム監査これからの10年」

講師：日本システム監査人協会 会長 鈴木信夫氏

(株)マイクロネット 執行役員研究企画部長 酒井雅裕氏

札幌大学経営学部教授 八鍬幸信氏

日本システム監査人協会 北海道支部副支部長 五十嵐洋介氏

日本システム監査人協会 副会長 小野修一氏

参加者：35名、うち会員14名



### Ⅲ. 東北支部

平成15年6月28日に設立した東北支部は、20周年記念事業セミナーの開催や会員の増加、システム監査の普及・PR、支部会員の研鑽のための勉強会等を計画に基づいて以下のとおり活動を行った。

#### 1. 平成20年度東北支部総会

- ・平成20年1月26日(土) 仙台市中央市民センター 第一セミナー室(A)  
出席者：会員数37名出席者28名(内委任状13名)
- ・議 題：報告事項1 平成19年度事業活動  
報告事項2 平成19年度収支報告  
第1号議案 平成20年度活動計画  
第2号議案 平成20年度予算計画  
第3号議案 平成20年度役員選任  
支部長：高橋 典子(新任)  
副支部長：佐藤賢一(留任)、田口三郎(新任)  
研究会：高橋壮太(留任)、小野寺司(留任)、舘田あゆみ(留任)  
広 報：櫻谷昭慶(新任)、横倉正教(新任)  
会 計：佐藤雅英(新任)  
監 事：成田由加里(留任)  
顧 問：鈴木 実(新任)

#### 2. 20周年記念事業

- ・日 時：平成20年10月25日(土)
- ・場 所：ハーネル仙台4F「青葉」
- ・テーマ：「システム監査人これからの10年」
- ・参加者：40名
- ・主 催：日本システム監査人協会東北支部
- ・後 援：経済産業省推進プロジェクト「東北IT経営応援隊」  
特定非営利活動法人ITコーディネータ協会  
日本システムアナリスト協会
- ・内容：
  - ①活動報告「支部活動からみたシステム監査人の育成」  
日本システム監査人協会 九州支部長 福田 啓二氏
  - ②特別講演「システム監査、普及から定着への推進力」  
日本大学商学部・大学院商学研究科教授 堀江 正之
  - ③講演 「会計監査の最新動向～システム監査への期待」  
東北大学会計大学院 准教授 成田 由加里氏
  - ④講 演「システム監査、これからの10年」  
日本システム監査人協会 副会長 小野 修一

### 3. 定例研究会及び役員会

#### (1) 3月例会

- ・平成20年3月8日(土) 14:00~17:00  
株式会社IT経営コンサルティング NAViSビル事務所
- ・報告事項
  - ・本部総会の参加報告
  - ・情報処理技術者新試験制度の説明について(配布資料)
- ・検討事項
  - ・20周年記念事業について
  - ・今後の勉強会の進め方について
- ・講演 東北支部の歴史(鈴木顧問)

#### (2) 5月例会

- ・平成20年 5月24日(土) 14:00~17:00  
NECソフトウェア東北ビル 403会議室
- ・報告事項
- ・検討事項 20周年記念事業について
- ・勉強会 「IT統制監査実践マニュアル」 第1部第1章~第3章

#### (3) 7月例会

- ・平成20年 7月12日(土) 13:00~17:00  
コラッセ福島 301会議室
- ・報告事項
- ・検討事項 20周年記念事業について
- ・勉強会 「IT統制監査実践マニュアル」 第1部第4章

#### (4) 9月例会

- ・平成20年 9月20日(土) 13:30~17:00  
株式会社IT経営コンサルティング NAViSビル事務所
- ・報告事項
- ・検討事項 20周年記念事業について
- ・勉強会 「IT統制監査実践マニュアル」 第1部第5章

#### (4) 11月例会

- ・平成20年11月29日(土) 13:30~17:00  
山形市 文翔館 会議室
- ・報告事項
- ・検討事項
  - ・20周年記念事業について
- ・勉強会 「IT統制監査実践マニュアル」 第2部第1章~第2章、事例研究  
※月例会の午前に支部会員の親睦を図るためそば打ち体験も実施

#### (5) 12月役員会

- ・平成20年12月20日（土）14：00～17：00  
株式会社IT経営コンサルティング NAViSビル事務所
- ・東北支部第7回総会運営と講演について
- ・本部への報告事項

#### 4. 情報交換

隔月毎に開催している月例会（東北南部三県幹事持ち回り）後には、懇親会を実施して、各県の状況および会員間での情報交換を行った。11月の月例会時には、午前中にそば打ち体験を実施し、親睦を深めた。また、メーリングリストによる本部情報、支部会員間の連絡および情報交換を実施した。

#### 5. 広報宣伝活動

- ・20周年記念事業を通して、東北各地のITC組織、日本システムアナリスト協会東北支部、東北経済産業局、東北IT経営応援隊などに対して、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。

### IV. 北信越支部

#### 1. 本年度の目標

SAAJ20周年を迎え、支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指します。

- ・研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上。
- ・本部、他支部との交流による知識、技術力の向上。
- ・プレゼンテーション能力の向上。
- ・インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上。

#### 2. 活動報告

(1) 3月15日(土) 富山県例会（富山市アーバンビル）

1. 参加：岩崎理事、伊藤、梶川、宮本、角屋、竹村、國谷、藤原、森田、清水、森

2. 内容；(1) 年度総会

(2) 本部年度総会の報告

(3) 講演

「個人情報保護について」

SAAJ 本部 個人情報保護監査研究会主査

本部理事 岩崎 昭一 氏

(4) 研究会ビデオの貸し借り

(2) 6月21日(土) 福井県例会（福井市 アオッサ）

1. 参加：森田，國谷，木村，梶川，清水，栃川，角屋，宮本，森

2. 内容；(1) 「J-SOX（IT統制）の概要」

角屋 典一 氏

(2) 「実際のIT監査の事例紹介」

栃川 昌文 氏

(3) システム監査研究会、情報セキュリティ監査研究会  
の経過報告

・システム監査研究会 森 広志 氏

－戦略性のシステム監査手法研究

・情報セキュリティ監査研究会 宮本 茂明 氏

－医療機関関連の個人情報保護監査に関する  
勉強会推進

(4) 北信越支部専用グループウェア運用について

清水 尚志 氏

(5) 20周年記念講演会について

－九州支部20周年記念講演会参加報告等

(6) 研究会ビデオの貸し借り

(4) 9月13日(土) 長野県例会（ホテル信濃路）

1. 参加：堀，宮本，梶川，木村，麻生，清水，藤原，神田，  
白井，森田，森

2. 内容；(1) 青少年ネット規制法の成立背景と問題点

麻生 秀明 氏

(2) システム監査研究会、情報セキュリティ監査研究会  
の経過報告

・システム監査研究会 森 広志 氏

－戦略性のシステム監査手法研究

・情報セキュリティ監査研究会

木村 武志 氏、梶川 明美 氏

－医療機関関連の個人情報保護監査に関する  
調査報告

(3) 情報セキュリティ監査用ソフトウェアについて

森田 清隆 氏

(4) 20周年記念講演会について

－講師依頼、後援依頼等

(5) 研究会ビデオの貸し借り

(5) 11月15日(土) 20周年記念講演会兼西日本支部合同研究会  
(電鉄富山駅ビルエスタ)

1. 内容：

- (1)挨拶 SAAJ 副会長 和貝 亨介 氏
- (2)基調講演1 「IT管理の現状と課題について」  
城西国際大学 客員教授 櫻井 通晴 氏
- (3)基調講演2 「IT投資対効果の最大化に向けて」  
SAAJ 副会長 三谷 慶一郎 氏
- (4)講演 「金融機関と決済システム  
システム監査の視点から」  
日本銀行金融機構局企画役 大石 正人 氏
- (5)北信越支部報告
  - ・「戦略性のシステム監査手法研究」  
システム監査研究チーム 森 広志 氏
  - ・「情報セキュリティアセスメント  
運用構築アプローチ手法研究」  
情報セキュリティ監査研究チーム 宮本 茂明 氏

### 3. 支部役員

支部長 森広志（富山）、副支部長 宮本茂明（石川）梶川明美（富山）  
白井正（新潟）、顧問 伊藤祐太郎（富山）松原一彦（石川）  
会計 坂井敏之（富山）、情報統括 清水尚志（石川）  
県部会長 角屋典一（福井）、木村武志（石川）、竹村徹也（富山）、  
風間一人（新潟）、堀明雄（長野）  
書記 尾島純子（富山）、監事 高瀬清春（富山）

## V. 中部支部

### 1. 活動方針

- ・中部支部内会員、およびの継続的な相互研鑽・交流を図る。
- ・中部支部以外の地域や団体との人材交流を積極的に展開していく。

### 2. 活動体制 (敬称略)

支部長 : 田中 勝弘

副支部長 : 杉山 浩一

会計担当 : 山田 和夫

顧問・監事 : 若原 達朗

支部担当役員: 山崎(敏)(広報担当)、井戸(会員担当)、堤(西日本合同研究会)、石井(研究開発担当)、原(国際取引研究)、萬代(システム取引法務研究)、高間(渉外担当)、関口(渉外担当)、原(国際交流)、田原(東京駐在)、山口(東京駐在)、若原(20周年記念講演会実行委員長)、

### 3. 活動内容

#### (1) 例会

SAAJ中部支部総会/第1回例会 (1/19 名古屋市(東桜ビル) 参加者13名)  
「EVAについて」 講師: 若原 達朗 氏

第2回例会 (3/15 名古屋市(東桜ビル) 出席17名)  
「新技術UTVを用いた、活性化と収益事業」  
株式会社ネクステイジ 代表取締役 高原 茂樹 様  
「RFIDの最新のトレンド解説」  
講師: 堤 薫 氏

第3回例会 (5/17 大垣市(ソフトピアジャパン) 参加21名)  
「高等教育機関におけるパラダイムシフト」  
～短大(大学)改革の難しさについて～  
講師: 中京短期大学 企画室室長・教授 石井 成美 氏  
「オフショア版システム管理基準を意識した運用ガイドについて」  
日本システムアナリスト協会 中部支部長 下谷 幸信 氏

第4回例会 (7/12 名古屋市(東桜ビル) 参加19名)  
「SaaSについて」講師: 高間 正俊氏  
「ITベンダーのSaaS製品「ESPRITナレッジ」の紹介」  
講師: 株式会社エスプリ 代表取締役 野田 幸嗣 様

第5回例会 (9/20 浜松市(研修交流センター) 参加20名)

「契約のあれこれ（ソフトウェア開発委託契約書）」

講師：萬代 みどり氏

「J-SOX対応 I T 統制監査実践マニュアルと基準研活動の紹介」

講師：松枝 憲司氏

## (2) イベント

SAAJ西日本支部合同研究会 (11/15 ; 富山県)

※近畿支部/中国支部/九州支部/北信越支部と共催(幹事支部:北信越支部)

SAAJ20周年記念講演会(中部支部)

(11/15 ; 名古屋市(今池ガスビル) 参加58名)

基調講演「効率的な内部統制の有効性評価と実践」

トヨタ自動車株式会社 常務役員 辻 晶仁 様

特別講演「システム監査、普及から定着への推進力」

日本大学商学部・大学院商学研究科教授

堀江 正之 様

講演「システム監査、これからの10年」

日本システム監査人協会 副会長 小野 修一

支部活動報告「中部支部の活動と今後」

日本システム監査人協会 田中 勝弘

2008年度情報セキュリティ監査セミナー IN NAGOYAを後援

※主催：経済産業省、特定非営利活動法人日本セキュリティ監査協会

(12/19 ; 名古屋市(今池ガスビル))

## VI. 近畿支部

### 1. 支部体制（敬称略）

#### （1）支部役員

支部長 吉田 博一  
副支部長 片岡 学（会計担当）、藤野 正純  
支部理事 関西 康一郎  
監事 福德 泰司  
参与 木村 安寿、中谷 正明、安本 哲之助

#### （2）サポーター

近畿支部の運営にご協力頂くメンバーを「サポーター」として、研究会等のお手伝いやサポーター会議で運営方針の検討に参加して頂いております。

### 2. 近畿支部総会 1月18日（金）大阪市総合生涯学習センター

出席者：20名、委任状72名

（支部会員181名に対して過半数の出席者、委任状があり、有効に成立）

議事次第：会長挨拶 協会概況について

- 議案1 支部規約制定について
- 2 2007年度の活動報告
- 3 2008－9年度の支部役員を選出
- 4 2008年度の事業計画

全議案につき、承認、可決された。

### 3. 支部規約の制定

支部規約を制定した。（1月18日の近畿支部総会にて、承認された。）

### 4. サポーター会議

平成20年度サポーター会議 12月9日（水）

場 所：学校法人 常翔学園大阪センター 301教室

テーマ：（1）平成20年度の振り返りと平成21年度の活動

次の平成21年度の主な活動案について議論した。

- ・西日本支部合同研究会（次年度は近畿支部が担当）
- ・近畿支部J－SOX研究会（再開）
- ・実践セミナー（21年6月を予定）

（2）今後の支部の方向性

参加者：21名



## 5. 定例研究会活動（奇数月 第3金曜日 講師による発表形式）

- (1) 第106回定例研究会 1月18日（金）大阪市立総合生涯学習センター  
テーマ：「2007年度近畿支部実践セミナーの報告」 報告者：神尾 博氏ほか  
出席者：19名
- (2) 第107回定例研究会 3月21日（金）学校法人大阪工大摂南大学大阪センター  
テーマ：「システム監査人とヒューマンスキル」 講師：中谷 正明氏  
出席数：43名
- (3) 第108回定例研究会 5月16日（金）大阪市立大学文化交流センター  
テーマ：「新たな展開期に入った個人情報保護－個人情報ガバナンス原則の制度化に向けて－」 講師：飛田 治則氏 出席数：25名
- (4) 第109回定例研究会 9月19日（金）大阪市立大学文化交流センター  
テーマ：「SI(システムインテグレーション)プロジェクトにおけるリスクマネジメント」～SIプロジェクトに潜むリスクのワナと標準リスクモデルによる実践的リスクマネジメント事例について  
講師：土出 克夫氏 出席数：35名
- (5) 第110回定例研究会 11月21日（金）大阪市立大学文化交流センター  
テーマ：「J-SOXへの取組みと内部監査の考え方－オムロンの事例－」  
講師：是松 徹氏 参加者：29名

## 6. システム監査勉強会（偶数月 第3土曜日 本部月例研究会ビデオ視聴・討議）

- (1) 第14回 2月16日（土）大阪大学中之島センター 出席者：35名
  - ①第132回「日本公認会計士協会の「内部統制の監査に関する実務上の取り扱い」の解説」
  - ②第133回「保証型情報セキュリティ監査の概念フレームワーク」
- (2) 第15回 4月19日（土）大阪市立総合生涯学習センター 出席数：30名
  - ①第134回「情報システムの信頼性向上に関する取組について～情報システムの信頼性評価指標及び共通フレーム2007～」
  - ②第135回「日本システム監査人協会編J-SOX対応IT統制監査実践マニュアル紹介」
- (3) 第16回 6月21日（土）大阪産業創造館 出席数：15名  
第7期通常総会記念講演 ①「内部統制と監査について-会社情報の信頼性の確保とIT-」 ②「経営とIT」
- (4) 第17回 8月16日（土）大阪大学中之島センター 出席数：22名
  - ① テーマ1：「最新のフォレンジック動向とシステム監査での考慮点」
  - ②「進化する千葉県市川市ITサービスの概要(自治体ITガバナンスランキング首位)」
- (5) 第18回 10月18日（土）大阪市立総合生涯学習センター出席数：20名  
テーマ：「J-SOXの運用テストの実際」  
講師：株式会社ニイタカ 監査室 雑賀 努 氏  
「現場発信のJ-SOX」（同友館）の著者である雑賀努氏による内部統制評価手続きをパソコンを使用して体験してもらう実践的なワークショップでした。

## 6. セミナー活動

## I J-SOX研究会

第6回打合せ会 2月1日(金) 学校法人大阪工大摂南大学 大阪センター  
講師: 田淵 隆明氏 出席者: 10名

## II システム監査実践セミナー

システム監査実践セミナー2日間コース(近畿支部主催)は、次の予定で準備を行っていたが、参加者が集まらず、中止となった。

日時: 平成20年11月22日(土)～23日(日)

1日目 13:00～21:00 2日目 9:00～16:00

## III 西日本支部合同研究会

(中部支部・北信越支部・近畿支部・中四国支部・九州支部)

日時: 平成20年11月15日(土) 13:00～17:20

場所: 電鉄富山駅ビルエスタ11階 会議室(富山市)

テーマ: 日本システム監査人協会 北信越支部 20周年記念講演会

「システム監査人これからの10年」

参加者数: 近畿支部から1名参加

幹事: 北信越支部

## IV ISACA大阪支部と日本システム監査人協会近畿支部の合同講演会

日時: 平成20年12月20日(土) 15:00～17:00

場所: 大阪大学中之島センター 2階 講義室1

テーマ: 「PCI DSSの概要と実装の考え方について」

講師: 株式会社ラック プロフェッショナルサービス事業部

シニアコンサルタント 夏目 雅好氏

出席者: 45名(当協会会員24名)

## 7. 支部20周年記念行事について

(1) 近畿支部20周年記念シンポジウム準備会について

次の打ち合わせを行った。

第2回	1月9日(水)	大阪市立阿倍野市民学習センター	出席者: 5名
第3回	1月28日(月)	大阪市立総合生涯学習センター	出席者: 6名
第4回	2月21日(木)	大阪市立大学文化交流センター	出席者: 6名
第5回	3月7日(金)	大阪市立大学文化交流センター	出席者: 7名
第6回	3月25日(金)	藤野正純事務所	出席数: 9名
第7回	4月9日(金)	同	出席数: 7名
第8回	4月23日(金)	同	出席数: 12名
第9回	5月9日(金)	同	出席数: 9名
第10回	5月30日(金)	同	出席数: 13名
第11回	6月11日(水)	同	出席数: 12名

第12回 7月4日(金) 同

出席数：16名

(2) 近畿支部20周年記念シンポジウム

2008年7月12日(土) 13:00~17:00 懇親会17:15~19:15

基調講演1「我が社における内部統制とシステム監査」

レンゴー株式会社 取締役兼常務執行役員 稲葉 貴氏

基調講演2「システム監査、普及から定着への推進力」

日本大学商学部 教授 堀江正之氏

基調講演3「システム監査これからの10年」

日本システム監査人協会 副会長 小野修一氏

パネルディスカッション「システム監査人をどう活用するか？」

パネラー：日本大学商学部 教授 堀江 正之氏

レンゴー株式会社情報システム部長 篠崎 良介氏

監査法人トーマツ パートナー 丸山 満彦氏

日本システム監査人協会 副会長 小野 修一氏

モデレータ：日本システム監査人協会近畿支部 中谷 正明氏

シンポジウム参加者 169名 懇親会参加者 74名

(3) 20周年記念誌の発刊 全187ページ

◇論文◇	システム監査の現状と普及への道	丸山 満彦
	情報システム部門の悩みとシステム監査への期待	篠崎 良介
	システム監査人と人間力	中谷 正明
	経営に役立つシステム監査考	佐竹 博利
	システム監査とともに歩んで	片岡 学
	J-SOX内部統制監査に必要な専門能力について	後藤 知久
	ITに関わる内部統制の状況とシステム監査人及び公認会計士の責任	中村 謙一
	財務報告に係る内部統制の重要な欠陥とその改善策	石島 隆
	法的セキュリティのシステム監査	松田 貴典
	情報システムのライフサイクル別システム監査について	岡谷 亨
	システム監査の効果の可視化の必要性	吉田 博一
	IT部門のプレゼンス向上とシステム監査	浦上 豊蔵
	プロジェクト監査とシステム監査・雑考	土出 克夫
	IT社会の信頼確立におけるIT監査の役割	飛田 治則
◇エッセイ◇	システム監査の興隆	木村 安寿
	衝撃をうけたアメリカの20年前のシステム監査	安本 哲之助
	システム監査技術者とシステム監査人協会の思い出	田淵 正信
	システム監査との出会い	土出 克夫
	劇団Z	馬場 孝悦
	システム監査と2つの”わくわく”	日高 祐子
	第六代(?)近畿会支部長として	吉田 博一
	協会の改革についての提案	石島 隆
◇コラム◇	付喪神、鶴	神尾 博
(ダ・ウポート)	計算・通信・制御機能の融合とユビキタス社会	神尾 博、安本哲之助

## Ⅶ. 中四国支部

### 1. 活動概要

- ・20周年記念講演会の開催（平成20年8月30日）
- ・ほぼ月に一度月例会を実施。（計10回）
- ・支部メーリングリストによる連絡、情報交換。

### 2. 活動実績

月例研究会（東京）のビデオの視聴及び情報交換を中心に月例会を実施した。

- (1) 平成20年1月度月例会 1月23日（水）18:30-20:30  
「保証型情報セキュリティ監査の概念フレームワーク」（ビデオ視聴及び情報交換）出席7名
- (2) 平成20年2月度月例会 2月22日（金）18:30-20:30  
「情報システムの信頼性評価向上に関する取組について」（ビデオ視聴及び情報交換）出席9名
- (3) 平成20年3月度月例会 3月26日（水）18:30-20:30  
「J-SOX対応 IT統制監査実践マニュアルの紹介」（ビデオ視聴及び情報交換）出席12名
- (4) 平成20年5月度月例会 5月14日（水）18:30-20:30  
「東証の経営とITー世界への挑戦ー」（ビデオ視聴及び情報交換）出席11名
- (5) 平成20年6月度月例会 6月24日（火）18:30-20:30  
「コンサルタントの基本の”き”ーコンサルタントの基礎技術ー」（講演）出席7名
- (6) 平成20年7月度月例会 7月30日（水）18:30-20:30  
「最新のフォレンジック動向とシステム監査での考慮点」（ビデオ視聴及び情報交換）出席8名
- (7) 平成20年9月度月例会 9月24日（水）18:30-20:30  
「進化する千葉県市川市ITサービスの概要」（ビデオ視聴及び情報交換）出席5名
- (8) 平成20年10月度月例会 10月22日（水）18:30-20:30  
「株式会社サウンドハウスにおける個人情報流出事件と対応」（ビデオ視聴及び情報交換）出席8名
- (9) 平成20年11月度月例会 11月28日（金）18:30-20:30  
「IT経営の実現に向けてーIT経営協議会とIT経営憲章」（ビデオ視聴及び情報交換）出席10名
- (10) 平成20年12月度月例会 12月17日（水）18:30-20:30  
中四国支部総会（事業報告、事業計画、役員改選）出席9名

創立 20 周年記念講演会を支部主催で開催した。

8 月 30 日 (土) 13:00-17:00 来場者 65 名

講演 I 「2011 年流通システムビッグバン」

株式会社フレスタ 経営企画室部長 西村 隆 氏

講演 II 「中堅・中小企業における効果的な IT 統制のあり方」

日本システム監査人協会 中四国支部 佐藤 康之

特別講演 「システム監査、普及から定着への推進力」

日本大学商学部・大学院商学研究科教授 堀江 正之 氏

講演 III 「システム監査、これからの 10 年」

日本システム監査人協会 副会長 小野 修一

### 3. 支部役員

支部長 溝下 博

副支部長 小野哲夫、福原博明

会計 清野敏弘

監事 福田陽一

顧問 大谷完次

## Ⅷ. 九州支部

### 1. 支部の状況と役員体制

●支部会員 53名（平成20年11月末日時点。昨年比2名減）

新入会：2名 退会：3名 休会：1名

●役員体制

支部長	福田啓二
副支部長	船津 宏 木下一朗
会計	松嶋 敦
会場	木下一朗
監査	居倉圭司
顧問	行武郁博
地区担当	(大分) 藤平 実 (長崎) 平山克己 (鹿児島) 山下博美 (沖縄) 井海宏通

### 2. 活動概要

#### (1) 月例会の開催

通例どおり、月1回の月例会を開催した。(福岡市)

8月度よりシステム監査学会九州地区研究会との連携を開始した。

#### (2) 創立20周年記念講演会を開催(5/17)

20周年記念事業として「研究レポート集」発刊。

#### (3) 他団体との合同イベントとして、今年で5回目にあたる

大分合同セミナー(5団体)を開催した(11/8)。

### 3. 月例会

毎月、支部会員の研究・検討・報告事項の発表を中心に行った。

東京での月例研究会ビデオ視聴を実施

以下は各月の主要事項。(各回の主要発表事項)

#### (1) 第207回 1月度月例会 1月19日(土) 14:00～17:00 (参加：8名)

内容：①20周年記念講演会の検討

#### (2) 第208回 2月度月例会 2月23日(土) 13:00～17:00 (参加：8名)

内容：①専門監査人部会の活動状況(船津) ②書評「海外子会社の内部統制  
—J-SOXをグローバル展開する際の勘どころ」(佐々木)

③ICAO内部統制評価者資格紹介(富永)

#### (3) 第209回 3月度月例会 3月29日(土) 13:00～17:00 (参加：10名)

内容：①「J-SOX対応IT統制監査実践マニュアル紹介」  
システム監査基準研究会主査 松枝 憲司理事

②「個人情報保護法とプライバシーマーク制度(JIS Q 15001)  
の課題と対応策」講演報告(船津)

#### (4) 第210回 4月度月例会 4月26日(土) 13:00～17:00 (参加：10名)

- 内容：①レポート解説「決済システムからみた事業継続監査の重要性」（大石）
- (5) 第211回 6月度月例会 6月28日(土) 13:00～17:00 (参加：6名)  
内容：①「個人情報の特定に関するシステム監査」（船津）
- (6) 第212回 7月度月例会 7月26日(土) 13:00～17:00 (参加：10名)  
内容：①「システム監査考」（行武）  
②「中小企業から見たITベンダーに潜むリスク」（平山）
- (7) 第213回 8月度月例会 8月23日(土) 14:00～17:00 (参加：11名)  
内容：①講演「セキュリティ対策の苦悩～セキュリティに苦しめられていませんか?～」(株)アステック・インタナショナル 野見山寛之氏
- (8) 第214回 9月度月例会 9月20日(土) 13:00～17:00 (参加：10名)  
内容：①シスアド@しんきん (居倉)  
②共通フレーム2007について(福田)
- (9) 第215回 10月度月例会 10月18日(土) 13:00～17:00 (参加：10名)  
内容：①「佐賀県 川島CIO講演の報告」 (内田)  
②「最近の情報セキュリティ事情」(福田)
- (10) 第216回 11月度月例会 11月22日(土) 13:00～17:00 (参加：6名)  
内容：①大分合同セミナーの開催報告  
②システム監査学会第21回公開シンポジウム参加報告  
③SAAJ 創立20周年記念講演会(東北、北信越)参加報告
- (11) 第217回 平成19年度九州支部総会(兼、12月度月例会)(参加10名)  
日時：平成20年12月13日(土) 13:00～17:00  
会場：福岡市NPO・ボランティア交流センター セミナールーム  
内容：①平成20年度事業報告 ②平成21年度事業計画  
③平成22年度役員改選 ④参加者全員近況報告

#### 4. 主催、共催イベント

- (1) 日本システム監査人協会 創立20周年記念講演会(九州開催)  
日程 平成20年5月17日(土) 13:00-17:00  
会場 八重洲博多ビル 11階ホールA (参加：46名)  
テーマ 「システム監査人これからの10年」  
主催 特定非営利活動法人 日本システム監査人協会(九州支部)  
後援 九州経済産業局  
特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会  
日本システムアナリスト協会  
情報システムコントロール協会大阪支部  
福岡ITコーディネータ推進協議会
- 次第  
開会挨拶 日本システム監査人協会 副会長 沼野 伸生氏  
基調講演「地方政府におけるCIOの役割  
～ICTによる行政イノベーションの推進～」

佐賀県最高情報統括監(CIO) 川島 宏一 氏  
特別講演「システム監査、普及から定着への推進力」

日本大学商学部・大学院商学研究科教授 堀江 正之 氏  
講演 「システム監査、これからの10年」

日本システム監査人協会 副会長 小野 修一氏  
活動報告「支部活動からみたシステム監査人の育成」

日本システム監査人協会 九州支部長 福田 啓二

## (2) 11月度 大分合同セミナー

日時 : 平成20年11月8日(土) 13:00~17:40

会場 : 大分市コンパルホール

主催 : 中小企業診断協会大分県支部、ITC大分

日本システム監査人協会、システム監査学会

特定非営利活動法人 大分IT経営推進センター

後援 : 特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

内容 : ①インターネット3D仮想空間で地域が変わる

講師 : 首藤完治氏

②個人情報保護マネジメントシステムの構築について

講師 : 個人情報保護専門監査人 船津宏氏

## 5. メーリングリスト

平成20年(平成19年12月~平成20年11月末) 457通

(前年 400通、前々年 576通)

月例会案内および出欠連絡、各種公表(システム監査関連)情報、  
セミナー情報など。

## 第2部 会計報告及び会計監査報告

### 1. 平成20年度 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

平成20年12月31日現在



第7期

(単位：円)

科目・摘要	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現預金			
・本部現預金			
三井住友銀行	1,764,581		
みずほ銀行（八重洲口）	450,948		
みずほ銀行（北沢）	1,183,688		
イーバンク銀行	1,504,333		
東京三菱UFJ銀行（新宿西）	1,365,707		
東京三菱UFJ銀行（日本橋）	2,906,382		
郵便振替口座	572,620		
郵便普通預金	4,229		
小口現金	83,642		
・支部現金預金			
北海道支部	191,656		
東北支部	103,325		
北信越支部	200,113		
中部支部	513,595		
近畿支部	376,495		
中・四国支部	278,516		
九州支部	191,738	11,691,568	
未収入金（延べ168名分の会費等）		1,677,000	
流動資産合計			13,368,568
2 固定資産			
器具備品			
シュレッダー1台	54,856		
パソコン1台	11,126		
プロジェクター 4台	112,787		
サーバー1台	405,357	584,126	
ソフトウェア			
新会員管理システム 一式	987,000	987,000	
敷金（共同ビル）		451,080	
固定資産合計			2,022,206
資産合計			15,390,774

II 負債の部			
1 流動負債			
未払金		0	

科目・摘要	金額		
預り金 (報酬等に係る源泉徴収税)		223,591	
仮受金		75,000	
前受金 (翌年以降分の会費)		110,000	
流動負債合計			408,591
負債合計			408,591
Ⅲ 差引 期末正味財産合計額			14,982,183

## 平成20年度特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

平成20年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第7期

(単位：円)

資産の部		負債の部		
科目	金額	科目	金額	
流動資産		流動負債		
現金預金	11,691,568	未払金		0
未収入金	1,677,000	預り金		223,591
前払費用	0	仮受金		75,000
流動資産合計	13,368,568	前受金		110,000
		流動負債合計		408,591
固定資産		正味財産の部		
器具備品	584,126	前期繰越正味財産	23,554,051	
ソフトウェア	987,000	当期正味財産減少額	8,571,868	
敷金	451,080	正味財産合計		14,982,183
固定資産合計	2,022,206			
資産合計	15,390,774	負債及び		
		正味財産合計		15,390,774

### 計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針
  - (1) 固定資産の減価償却

器具備品は定率法、ソフトウェアは定額法により、帳簿価額を直接減額している。

(2) 資金の範囲

資金の範囲は、現金と流動性預金としている。前期末及び当期末残高は、下記2に記載した通りである。

(3) 消費税に関する会計処理方法

税抜方式によっている。なお、控除仕入税額は、消費税法第60条第4項により特定収入に係る課税仕入れ等の税額のみを控除している。

2. 次期繰越収支差額の内容

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	18,362,621	11,691,568
合 計(イ)	18,362,621	11,691,568
固定性預金	0	0
合 計(ロ)	0	0
次期繰越収支差額(イ)-(ロ)	18,362,621	11,691,568

3. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
器具備品	2,567,365	1,983,239	584,126
ソフトウェア	1,617,000	630,000	987,000
合 計	4,184,365	2,613,239	1,571,126

## 平成20年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書

平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第7期

(単位：円)

科 目	予算 (細目)	実績 (細目)	差引 (実績-予算)
<b>I 収入の部</b>			
1 入会金・会費収入	11,200,000	9,396,000	△1,804,000
入会金収入	200,000	87,000	△113,000
会費収入	11,000,000	9,309,000	△1,691,000
2 事業収入	21,460,000	17,687,004	△3,772,996
普及・啓発、広報事業	0	253,000	253,000
研究・研修事業	17,960,000	13,966,184	△3,993,816
認定事業	3,500,000	3,467,820	△32,180
3 寄付金収入	0	0	0
4 その他収入	515,000	1,683,268	1,168,268
支部収入	500,000	1,591,377	1,091,377
雑収入	15,000	91,891	76,891
当期収入合計 (A)	33,175,000	28,766,272	△4,408,728
<b>II 支出の部</b>			
1 事業費	32,830,000	23,636,179	△9,193,821
普及・啓発、広報事業費	11,640,000	9,522,883	△2,117,117
研究・研修事業費	17,190,000	10,043,886	△7,146,114
認定事業費	4,000,000	4,069,410	69,410
2 管理費	10,014,000	12,866,497	2,852,497
通信費	250,000	209,551	△40,449
旅費交通費	960,000	1,222,527	262,527
什器備品費	200,000	0	△200,000
消耗品費	400,000	358,411	△41,589
会議費	600,000	551,628	△48,372
事務局手当	3,500,000	4,501,230	1,001,230
事務所運営費	1,300,000	1,138,616	△161,384
会計業務委託費	504,000	504,000	0
支部運営費	2,000,000	3,885,873	1,885,873
(支部助成金)	(1,500,000)	(1,386,400)	(△113,600)
ハード・ソフト費用	0	196,560	196,560
雑費	300,000	298,101	△1,899
3 予備費	100,000	0	△100,000
4 減価償却費	1,000,000	835,464	△164,536
5 租税公課	30,000	0	△30,000
当期支出合計 (B)	43,974,000	37,338,140	△6,635,860
当期収支差額 (A) - (B)	△10,799,000	△8,571,868	2,227,132
前期繰越収支差額 (C)	23,554,051	23,554,051	0
当期繰越収支差額(A)-(B)+(C)	12,755,051	14,982,183	2,227,132

\*実績の入会金・会費収入には、未収入金 1,677,000円を含む。

\*実績の支部運営費は 3,885,873円のうち 1,386,400円は支部助成金から支出している。


## 2. 平成20年度 監査報告

### 監査報告書

1. 特定非営利活動法人日本システム監査人協会における平成20年度（平成20年1月1日から平成20年12月31日）の事業予定・実績表、貸借対照表並びに財産目録は、関係諸帳簿、その他の関係書類を監査したところ、いずれも適正であり、また、公益法人会計基準に準じて正確に作成されたものであることを認めます。
2. 業務遂行に関しては、不正行為または法令もしくは定款に違反する事実は認められません。

平成21年2月8日

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

監事 富山 伸夫 

監事 中尾 宏 

## I. 本部

### 1. 全般

協会20周年記念事業も大きな成果をあげて終わり、協会活動は新しい局面に踏み込んでいくことになる。

J-SOX法対応の今後のあり方、個人情報取扱いの変化の有無、住民基本台帳情報の活用の動向など、対処を迫られる状況が次々に出てくることが予想される。

関連業界の他団体では、「報告書の品質保証をどうするか」などの動きもみられる。

システム監査人のあり方、協会活動のあり方を、さらに問いながら行動していく。

今までの諸活動を継続し、さらに次の事項に重点的に取り組む。

- ・「システム監査、これからの10年」報告提言の実施
- ・公認システム監査人制度の充実
- ・オフショア開発のためのシステム管理基準の作成

#### (1) 「システム監査、これからの10年」報告書提言の実施

- ・提言内容の具体化

#### (2) 公認システム監査人認定制度の充実

- ・公認システム監査人等の利用推進のためにCSA（ASA含む）認定取得者を対象にCSAフォーラムを立ち上げ隔月に開催
- ・年2回春秋の公認申請の募集を継続
- ・継続教育セミナーの年2回実施

#### (3) オフショア開発のためのシステム管理基準の作成

- ・オフショア開発のためのシステム管理基準第2版の作成、公開
- ・オフショア関連企業との意見交換

## 2. 教育研修委員会

本年度も前年同様、特別講習認定機関に認定コースを委託により実施する。

### (1) 論文・プレゼンテーションコース（1日コース）

実施回数予定： 東京10回、大阪1回 計11回

実施時期予定： 1月～6月 7回、7月～12月 4回

受講者予定： 20名

### (2) システム監査に関する知識コース（2日コース）

実施回数予定： 東京10、大阪2回 計12回

実施時期予定： 1月～6月 6回、7月～12月 6回

受講者予定： 40名

### (3) 情報システムに関する知識コース

実施回数予定： 東京1回、大阪1回 計2回

実施時期予定： 1月～6月 1回、7月～12月 1回

受講者予定： 10名

### (4) コース運営管理について

委託機関に対して、講習後の試験が再提出のない様に、評価を行うことを指導する。

保管ファイルの整理を行い、過去の情報をデジタル保管とする。

情報処理試験制度の変更に伴う特別講習認定についての見直しを行う。

### 3. 会報

#### (1) 今後の活動計画

①好評な特集に加え、気軽にエッセイやレポートを投稿できる会報作成を目指しています。会員各位の積極的な投稿を期待しています。

定例テーマは、理事会議事、月例研究会、事例研修会、内部統制研修会の報告。支部の活動報告。CSA 活動報告など。

②実務に有益な会報を目指し、活動報告と掲載論文の募集を継続します。

③会員向けの広報誌としての役割に加えて、監査に関心を持つ人への情報発信が出来るよう、また会員が監査に関する活動を説明する場を設けたい。

・研究会活動に参加していない会員が活動することを支援する内容を織り込んでいきたい。(例：CSA コラム、論文より軽いエッセイ風の記事編集)

#### (2) 2009 年会報の特集計画

2009 年には、内部統制報告に関する監査が開始されますが、20 周年記念行事を通じて議論されたシステム監査の今後の 10 年、および公認システム監査人の活動や CSA フォーラム、支部での活動などを加えて、事例特集を編集していく見込みです。

#### (3) 会報の発行回数について

平成 20 年は、20 周年記念講演および総会の開催日と 100 号記念号を調整して会報の発行を 5 回とした。

平成 21 年は、通常通り、年間 6 回の開催を予定している。

### 4. 月例研究会

#### (1) 月例研究会の開催回数について

平成 20 年度は年間 9 回の研究会を開催した。

平成 21 年度も年間 8 回から 9 回の開催を予定したい。

#### (2) 各回のテーマ／講師について

- ・引続き会員の興味を引く、鮮度のよいテーマの選定に努めたい。
- ・また、分野については特定分野に偏らずバランスよく選定していきたい。
- ・講師については、今年度も官公庁・外郭団体、民間、大学及び当協会関係者等のバランスを考慮していきたい。



## 5. 法人部会

### (1) 会員の拡大

- ・平成20年は法人正会員が1団体減少し、残念であった。引き続き、法人正会員の増強に向けた活動を行う。具体的には、システム監査企業台帳登録企業をはじめ、システム監査に係わりの深い企業に対しての入会案内の送付を行う。
- ・法人部会、さらには当協会の活動成果のアピールが会員の増強につながるので、活動の充実を図っていく。

### (2) 自治体向け情報セキュリティセミナーの実施

- ・平成20年は3自治体で6回のセミナーを実施し、総計で約570名の方が参加された。
- ・SAAJの知名度向上にも意義のある活動であり、セミナーの内容の充実、実施事例のアピールなどによって、さらに広報を行い、実績を増やしていきたい。DMは全国各市レベルまで対象を拡げること検討する。さらには、自治体だけでなく民間企業へのアプローチも検討していく。

### (3) 「システム監査これからの10年」の提言に対する取組みへの意見出し

- ・提言に対する取組みのまとまりに応じて、法人部会メンバーでも討議を行い、意見出しを行う。

### (4) 会員同士の情報交換

次のようなテーマで、会員企業同士で意見交換を行っていく。

- ・システム監査のビジネス化
- ・システム監査を取り巻く状況；内部統制、個人情報保護、情報セキュリティ

### (5) 定例部会

- ・月1回開催する。

## 6. CSA利用推進

### (1) 今後の活動計画

- ・CSAのプレゼンスと社会的な評価や価値を高め、具体的な実効を挙げることがを目標とする。2008年に立ち上げたCSAフォーラムを引き続き隔月開催し、CSAの方々をうまく巻き込んだ実践的な取り組みを推進する。利用推進担当理事と支援メンバーを主体にした会合も開催するが、CSAの方々から意見や要望を受ける場や新たな支援メンバーも募集したい。
- ・活動認定カード、パンフレット、要件の追加記載の依頼等に対する普及フォローを引き続き行う。大幅リニューアルしたCSA関連サイトの内容充実を図り、SAAJのホームページ全体の活性化も目指す。CSAの方々の相互研鑽と情報共有の場として立ち上げたCSAフォーラムにより、フェイス・toフェイスの場の充実も図りたい。さらにCSAを広く社会に知ってもらうためにCSAに関係した実務書の出版も複数の筆者を募りながら検討を開始したい。
- ・活動は担当理事と支援メンバーによる月1回程度の会合と、CSAの方々も広く参加できる場を作る。またCSAフォーラムメーリングリストや会報、HP、メーリングリストの活用、ならびに会報、HP&メーリングリスト、月例会等の担当理事、CSA認定委員会、SAAJ事務局等との連携や協力を取って進めていく。

### (2) 今後の課題

- ・CSA利用推進の活動を幅広くSAAJ会員に知ってもらうことと、世の中に対してCSAのプレゼンスを高める実効は、まだ途上である。次年度は、今までやってきた活動を再度見直し活性化するとともに、隔月開催のCSAフォーラムの充実を図り、より多くのCSAの方々との連携・協力体制作りを進めたい。
- ・さらに20周年プロジェクトでの検討課題である「システム監査人の役割、要求されるスキルなどの見解のまとめ」について、“CSAフォーラム”における検討テーマとして取り上げ、課題の検討を進める。情報処理技術者試験において期待されるシステム監査人としての役割、スキルを当協会として整理した上で、試験合格者等の高度なシステム監査人について進むべき人材像の明確化と具体的な育成策の提示を目指していく。

## 7. システム監査事例研究会

### (1) システム監査普及サービス

- ・計2回/年実施を目標に、協会ホームページで監査の受診希望企業・団体を募集。別途、必要な営業活動を行う。

### (2) システム監査実務・実践セミナー

- ・公認システム監査人制度の教育制度の一環として、昨年同様システム監査実務セミナー4日間コースを2回開催したい。普及サービス実施結果に基づき新教材の開発を行い、システム監査未経験の会員及び公認システム監査人補にシステム監査実務を経験する機会を提供してゆきたい。

具体的な開催計画は、以下の通り。

#### ① 13回システム監査実務セミナー4日間コース

2008年2月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日)

(於：千葉市幕張)

#### ② 第14回システム監査実務セミナー4日間コース

9月開催予定(於：千葉市幕張)

### (3) 内部統制セミナー

- ・本年は、4回/年開催を目標に、ITの内部統制全般の監査人養成を目的とした内部統制セミナーとして当協会主催セミナーとして定着させてきたい。現在開催が決定しているセミナーは、以下の通り。

内部統制セミナー2日間コース (於：千葉市幕張)

第10回 1月24～25日

以降3月、6月、11月に開催予定。

### (4) システム監査事例研究会からの情報発信

- ・SAAJのホームページ上に、事例研究会の活動状況及び活動実績を広報、宣伝するために、継続的に情報発信を行なうこととしたい。事例研究会の中にホームページ担当部会をおき、具体的な改善改良作業を開始しており、本年も継続的に活動していきたい。

### (5) 月例会の活性化

- ・毎月開催している月例会において、テーマ及び講師を予め決め、新規参加会員に有益な情報提供と討論を含めた活動への参加の場を新たに提供したい。

## 8. 情報セキュリティ監査研究会

### (1) 活動計画

平成20年度に計画した成果まで至ることが出来なかったため、引き続きその延長になる次の検討を進める。

『情報セキュリティ監査のためのリスクの洗出し  
およびその分析、監査における監査ツールの利用』の一般化、普及

### (2) 平成21年度研究会研究項目

- ①情報セキュリティ監査基準の監査に関する情報・ノウハウの共有
  - ②情報セキュリティ監査基準を利用する「基準ツール」の充実を図る
- 成果としては、「リスクの洗出しおよびその分析、監査ツールの利用」について一般の方々（＝当協会に所属していないなど専門家で無いの方々）を意識した分かりやすい、使いやすい形でまとめることにしたい。

### (3) 展開方法（案）

リスクの洗出しモデルをツール上に展開する。Wikiサーバにおいた閲覧ツールを継続して利用し、このツール上に情報セキュリティ監査結果を参考にして得たノウハウ（平成20年度に検討した）を、JISQ27001（\*1）を軸に展開し、いくつかの業務分野に関するリスクの洗い出しとその対応方法を資料化する。

（\*1）JISQ27001：情報技術—セキュリティ技術—情報セキュリティマネジメントシステム—要求事項

## 9. システム監査基準研究会

### (1) 研究項目

- ① SAAJ システム管理基準体系

### (2) 研究会項目

「システム監査これからの10年」の提言・要望事項に基づいた以下の項目について、継続的に取り組んでいく。

- ① 「オフショア開発のためのシステム管理基準」等、システム監査基準を有効活用するための情報提供機能の強化  
「研究会の成果について、協会 HP 上での提供等ローコストで簡便な方法を検討する。
- ② システム管理基準のシステム現場への普及
  - ・ COBIT 4.1 とシステム管理基準のマッピングの完成
  - ・ 1月に日本セキュリティ監査協会顧問で工学院大学の太田先生とシステム監査基準研究会メンバーによる意見交換を実施予定
- ③ システム監査の視点の整理、特に有効性  
各団体等では出されている見解を参考に、システム監査基準研究会としてのシステム監査の視点を定義づけていく。

### (3) 定例研究会

- ・ 定例研究会は、原則月1回開催した。

## 10. 個人情報保護監査研究会

システム監査人の活動分野の一つとして、個人情報保護マネジメントシステム（PMS）の構築・推進及び個人情報保護監査を担える人材の育成と、活動の場を確保すべく、研究と実践を推進する。

- (1) 個人情報保護管理者／監査責任者向け情報交換会の開催  
出版物「個人情報保護マネジメントシステム実践マニュアル」を活用
- (2) 個人情報保護マネジメントシステムの構築・推進、維持に関する研究
- (3) 個人情報保護監査の実施に関する研究
- (4) 個人情報保護に関する提案・提言・研究の推進
- (5) システム監査人協会ホームページ上での、情報の提供及びPMSに関するQ&Aへの対応

## II. 北海道支部

### 1. 定例研究会・勉強会実施

研究会は、テーマを決めて隔月で実施する。基本的に支部員が持ち回りで講師を務める。また、本部より送付される月例会のビデオテープを上映する勉強会を隔月で実施する

### 2. 講演会の実施

年に1度、外部より講師を招いて講演会を実施、広く一般に公開する。他団体との共催により聴衆を増やし知名度を高めるとともに、広く交流を図る

### 3. システム監査の実践

北海道でのシステム監査普及サービスを試行する。また北海道でのシステム監査ビジネスの普及に向けての調査を行う

### 4. 広報

支部活動について対外的な広報、および支部員勧誘を行う。

対外的な広報に関しては、協会のホームページの北海道支部のコーナーを充実させる

### 5. メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を行う

## Ⅲ. 東北支部

### 1. 月例研究会

- ・メーリングによる参加を考慮した月例会を2ヶ月に1回程度開催する。
- ・毎回、会員による活動事例発表を講演する。
- ・開催場所は仙台市の他、各県での開催を検討しつつ運営する。  
3/7(土)福島、5/23(土)仙台、7/18(土)仙台、  
9/12(土)～13(日)山形にて合宿、11/21(土)仙台

### 2. 広報活動

- ・経済産業省推進プロジェクトである「東北IT経営応援隊」、各県のITコーディネータ組織、日本システムアナリスト協会東北支部との連携を図り、当協会東北支部の広報宣伝活動を強化する。
- ・協会ホームページの支部便りを活用し、特に、東北支部地域へのシステム監査に関する情報の発信を行う。

### 3. 会員増強

- ・公認システム監査人の特別講習受講対象資格保持者から公認システム監査人(補)の資格取得促進を図るため、仙台市での特別認定講習実施に向け活動を行う。
- ・上記受講を終了し、公認システム監査人(補)の資格取得した者、および情報処理試験(システム監査技術者)合格者などを対象に会員加入を推進する。

### 4. 内部統制セミナーの開催

- ・仙台市での内部統制評価・監査に関する実践能力を修得するための内部統制セミナー開催に向け活動する。(2日間、宿泊は受講者各自手配)

### 5. システム監査普及サービスの実施

- ・今年度は、更に会員がシステム監査を体験できるように、システム監査普及サービス対象企業を募り、事例研究会と共同開催を目指す。

### 6. ワークショップの開催

- ・今年度は、日本システムアナリスト協会東北支部において同全国大会が開催される予定となっており、それと、例年実施しているITCみやぎとのワークショップとの連携を図ったワークショップを開催する。  
(10月23日～24日予定)

## IV. 北信越支部

### 1. 本年度の目標

- ・ 研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上。
- ・ 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上。
- ・ プレゼンテーション能力の向上。
- ・ インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上。

### 2. 活動計画(予定)

- ・ 1月31日 石川県例会
- ・ 2月中 本部年度総会
- ・ 3月14日 支部年度総会(富山県)
- ・ 6月20日 福井県例会
- ・ 9月12日 新潟県例会
- ・ 12月12日 石川県例会
- ・ 日程未定 西日本支部合同研究会

### 3. 支部役員

(以下は、平成20年12月31日現在の役員です。平成21年3月に、年度総会を予定しております。)

支部長 森広志(富山)、副支部長 宮本茂明(石川) 梶川明美(富山)

白井正(新潟)、顧問 伊藤祐太郎(富山) 松原一彦(石川)

会計 坂井敏之(富山)、情報統括 清水尚志(石川)

県部会長 角屋典一(福井)、木村武志(石川)、竹村徹也(富山)、

風間一人(新潟)、堀明雄(長野)

書記 尾島純子(富山)、監事 高瀬清春(富山)



## V. 中部支部

### 1. 活動方針

- ・中部支部内会員、およびの継続的な相互研鑽・交流を図る。
- ・中部支部以外の地域や団体との人材交流を積極的に展開していく。

### 2. 活動体制

支部長 : 田中 勝弘  
副支部長 : 杉山 浩一  
会計担当 : 早川 晃由(新任)  
顧問・監事 : 若原 達朗

### 3. 活動内容(予定)

- (1) 例会 (1, 3, 5, 7, 9月の土曜日)
  - (2) 合宿(11又は12月の土日)
  - (3) 各種イベントの企画 (西日本合同研究会への参加など)
  - (4) その他
- ・メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報提供
  - ・中国との交流

## VI. 近畿支部

### 1. 活動方針

- ・本年度は、前年度の支部20周年記念行事を契機として、更なる支部活動の活性化を図る。

### 2. 支部体制 (敬称略)

#### (1) 支部役員

支部長 吉田 博一  
副支部長 片岡 学(会計担当) 藤野 正純  
支部理事 関西 康一郎  
監事 福德 泰司

#### (2) 参与

木村 安寿、中谷 正明、安本 哲之助

#### (3) サポーター

石島、土出、川端、深田、大島、大谷、福德、小山(正)、神尾、飛田、浦上、川見、鹿野、広瀬、鈴木、岡谷、津田(博)、梅原、畠山、松井、筆島、芹生、尾浦、小山(俊)、金子、中村、大塚、荒町、小河、逢坂(会員番号順)などのサポーター各位の協力を得て、支部活動を行います。

### 3. 定例研究会活動

- ・従来と同様、隔月（奇数月の第3金曜日）にて年間6回開催する計画。
- ・講師の選定については、当協会会員を中心にリクエストに応じてお願いします。

### 4. システム監査勉強会

- ・本部定例研究会のビデオによる勉強会で、平成17年度より実施した。
- ・定例研究会の開催されない月（偶数月の第3土曜日）で、年間6回予定。

### 5. セミナー活動

- (1) 支部合同研究会（近畿・中部・北信越・中四国・九州の各支部）  
幹事支部として、支部間のネットワークを拡げ、近畿支部会員にも充実した内容となるような参加型のイベントとしたい。（開催時期：秋予定）
- (2) 近畿支部 J-SOX研究会  
J-SOX法関連のテーマについて、支部会員同士での話題提供・意見を行う。
- (3) システム監査実践セミナー  
中小企業のシステム監査の模擬監査として、6月27~28日で開催予定。
- (4) システム監査普及セミナー  
半日か一日程度のシステム監査の研修を行う。

### 6. システム監査普及サービス

- ・システム監査の普及と実践例の蓄積のために、積極的な広報活動と体制整備につとめる。

### 7. 支部運営体制について

- ①円滑な支部運営
- ②各活動のサポーターの組織化
- ③支部サイトの構築

## **Ⅶ. 中四国支部**

### **1. 活動計画**

- ・月例会の開催（原則月 1 回）
  - 月例研究会のビデオ視聴
  - その他、情報交換
- ・支部シンポジウムの開催（春）
  - 県外会員の参加勧奨（参加者の旅費補助を別途検討する。）
  - 本部、他支部会員との交流
- ・西日本合同研究会への参加（秋）
  - 県外会員の参加勧奨（参加者の旅費補助を別途検討する。）
  - 本部、他支部会員との交流

### **2. 役員体制**

支部長	溝下 博	副支部長	福田陽一、福原博明
会計	清野敏弘	監事	池田光孝
顧問	大谷完次		

## Ⅷ. 九州支部

### 1. 活動計画

- (1) 月例会の開催 原則月 1 回の月例会を継続する。
  - ・参加者が発表しやすい企画。
  - ・外部講師による講演の企画。
  - ・システム監査学会九州地区研究会との連携  
(九州地区研究大会の企画)
- (2) 九州支部設立 20 周年記念企画
  - ・九州支部設立 20 周年記念月例会開催 (2009 年 12 月予定)
  - ・支部 20 周年記念成果物の企画
- (3) 他支部、他団体との合同企画・開催。
  - ・西日本支部合同研究会への参加  
2009 年度は近畿支部主催で開催予定。
  - ・福岡 ITC 推進協議会はじめ九州各県の ITC 組織、システムアナリスト協会九州支部等の関連団体とのイベント共催の推進する。
- (4) 関連他団体との連携、情報発信の活発化
  - ・関連団体主催のイベントへの後援などを通じ連携を深めるとともに、当協会の紹介などを活発に行う。
- (5) メーリングリストによる情報・意見交換の一層の活発化
- (6) 情報発信、広報活動の活性化
  - ・支部の活動計画、実績をホームページを中心に発信、広報に努める。
- (7) その他、支部活動整備
  - ・支部会員名簿の整備を進める。

### 2. 役員体制

支部長	福田啓二
副支部長	船津 宏 荒添美穂
会計	松嶋 敦
監査	居倉圭司
顧問	行武郁博
地区担当	(大分) 藤平 実 (長崎) 平山克己 (鹿児島) 山下博美 (沖縄) 井海宏通

平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計 事業予算科目案

平成21年1月1日から平成21年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

(単位：円)

科 目	(細目)	備 考
I 収入の部		
1 入会金・会費収入	10,580,000	
入会金収入	80,000	
会費収入	10,500,000	
2 事業収入	15,420,500	
普及・啓発、広報事業	0	
研究・研修事業	12,020,500	月例会、セミナー、継続教育
システム監査人の認定事業	3,400,000	認定料、登録料、更新料
3 寄付金収入	0	
4 その他収入	1,430,000	
支部収入	1,400,000	支部研修会収入等
雑収入	30,000	受取利息
当期収入合計(A)	27,430,500	
II 支出の部		
1 事業費	22,198,400	
普及・啓発、広報事業費	5,880,000	会報、パンフ、ホームページ、 広告宣伝
研究・研修事業費	12,318,400	各研究会、分科会、講師料
システム監査人の認定事業費	4,000,000	認定員手当、認定票作成費
2 管理費	12,864,000	
通信費	210,000	
旅費交通費	1,200,000	
消耗品費	400,000	
会議費	600,000	総会費、理事会費
事務局手当	4,500,000	
事務所運営費	1,200,000	事務所賃貸料
会計業務委託費	504,000	
支部運営費 (支部助成金)	3,000,000 (1,300,000)	支部研修会費用等
ハード・ソフト費用	950,000	
雑費	300,000	
3 予備費	100,000	
4 減価償却費	600,000	
5 租税公課	0	
当期支出合計(B)	35,762,400	
当期支出差額(A)－(B)	-8,331,900	
前期繰越収支差額(C)	14,982,183	
当期繰越収支差額(A)－(B)＋(C)	6,650,283	

## 一部理事改選の件

辞任理事： 蒲ヶ原 茂

： 菅野 徹

就任理事： 大石 正人 (勤務先：日本銀行)

： 山田 隆 (勤務先：日本規格総合研究所)

●経緯

1. 平成 20 年 2 月 18 日の当協会創立 20 周年記念講演会において、平成 19 年度に実施したアンケート結果に基づいた「システム監査これからの 10 年」を発表し、その中で当協会が取り組むべき重要なテーマを 10 の提言という形で発表した。また、アンケートに対する回答として挙げられた要望事項のうち、数の多かったものを同時に発表した。
2. その発表内容は、会報および協会 Web サイトへの掲載によって、広く公表した。
3. その後、平成 20 年度に各支部で開催された創立 20 周年記念大会において、同じ内容を支部会員に報告し意見交換を行った。
4. 10 の提言および要望事項に対して、理事会で担当理事を決め、それぞれ検討を進めてきた。
5. 以下にご報告する内容は、担当理事を中心に進めてきた取組み結果の報告と今後の取組みの計画である。いずれの提言も容易に結論が出せるものではなく、平成 20 年度は論点の整理、取組みの方向性を整理したものが大半であった。その中でも、具体的な施策に展開できたものもいくつかある。
6. 平成 21 年度以降、会員の皆様にも参加していただく形で、それぞれの提言について取り組んでいく。

●10 の提言についての報告

提言	取組み状況	今後の取組み計画
1. システム管理者および若い世代に目を向けた取組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来のシステム監査は、「監査人や監査業務という身内に偏った活動」が中心だった、という課題意識のもと、広くディスカッションメンバーを募り（現在も継続して募集中）、また外部と交流を深める機会に参加した。</li> <li>・監査の領域を、環境監査などの ISO 監査、内部監査、内部統制監査、会計監査、およびそれぞれの業務を目標達成に導く監査など、経営者を直接的に支援する新たなシステム監査像を描いてみる方向で試行を進めている。</li> <li>・「CIO やシステム管理者」へのアプローチとして、大学の CIO 研究に参加した。</li> <li>・「若い世代」へのアプローチとして、システムアナリスト協会の活動への参加、および大学教育現場、高校生の職業選択として監査人を紹介した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業環境が大きく変わる中で、システム思考に基づき、IT 投資の効率化、業務の現場で IT を効率的に活用していく機会が増える。システム監査を積極的に活用するよう、仮説の試行と検証をすすめていく。</li> <li>・従来、システム監査人の候補者でもある「システムアナリスト」が、期待される人材像と情報処理試験の制度変更に伴い、「ストラテジスト」として改編される。監査は、一定の経験がないと実践することが難しい役割であるが、若い世代にも監査スキルを備えた技術者でありシステムの管理者として育成していくカリキュラムも計画したい。</li> </ul>
提言	取組み状況	今後の取組み計画
2. 経営マネジメントシス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「システム監査という言葉では経営者を引き付けられない」という課題意識のもと、経営マネジ</li> </ul>	経営に寄与する新たなシステム監査像については、まだまだイメージは固まってい

<p>テムの枠組みへのシステム監査の組込み</p>	<p>メントシステムの中にシステム監査を明確に位置づけるために何を行なうべきか、ということについて、20周年プロジェクトメンバーによる討議、北信越支部20周年記念講演会、CSAフォーラムにおけるディスカッションを通じて検討を深めていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来のシステム監査の枠に留まらず、経営に役立ち、経営者を直接的に支援することができるような新たなシステム監査像を描くことが重要ではないか、という方向で議論が進みつつある。</li> <li>・例えば、「投資したシステムが効果をあげているか（有効性評価）」「有効性の評価プロセスが適正に構築されており確実に実行されているか」を監査すること等も有意義ではないかとの意見もある。</li> </ul>	<p>ない。</p> <p>次年度以降さらに継続した議論が必要であると考え。</p>
<p>3. システム監査と情報セキュリティ監査の関連・違いの明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済産業省の発表資料、システム監査基準解説書、システム管理基準解説書、その他の文献を参考に、監査の目的、監査の範囲、監査の対象、監査の手続き、監査の基準、監査人・実施体制といった切口で、両者の関連・違いを整理した。</li> <li>・20周年プロジェクトメンバーで、数回に渡って討議を行った。</li> <li>・法人部会メンバーに、意見を伺った。</li> <li>・システム監査が情報セキュリティ監査を包含している、という認識が大勢であり、論理的な裏付けを整理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討結果のアウトプットは、相当レベルまで来ていると判断している。</li> <li>・情報セキュリティ監査の識者との意見交換を予定している。</li> <li>・他の提言の検討結果との整合性を確認する。</li> <li>・2009年の早い時点で、理事会メンバーの意見を伺う。</li> <li>・その後、協会Webサイトに公開し、広く意見を伺う（パブリックコメント相当）。</li> </ul>
<p>4. システム監査の法制化、制度化のあり方の検討</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①システム監査の、今後の機能とあり方を検討した。</li> <li>②上記①に基づき、現状制度としてどのようなものがあるかを想定した。</li> <li>③上記②の阻害要因等が何かを分析した。</li> <li>④上記③を排除する方策を検討し、制度化推進策を「提言」案としてまとめた。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「提言」を協会内に発表する。</li> <li>・「提言」を協会外に公表する。</li> <li>・他の提言と合わせて、所管当局へ説明する。</li> </ul>
<p>提言</p>	<p>取組み状況</p>	<p>今後の取組み計画</p>
<p>5. 保証型監査についての見解の明</p>	<p>保証型監査については、システム監査・情報セキュリティ監査に関連する各団体で議論が進められているが、まだ確立されるに至っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム監査の普及を使命とする当協会として、他団体の先行研究の成果も確認しながら、保証型システム監査の定義、</li> </ul>



<p><b>確化と公表</b></p>	<p>システム監査の法制化・制度化を展望し、保証型システム監査のあり方を明確にしておく必要がある。</p>	<p>基準、実施方法、報告のあり方などについて見解をまとめ、公表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム監査のこれからの10年を見据えたテーマであり、拙速な検討でなく、じっくり腰を据えて検討を進める。(2、3年の中期検討計画の繰り返しで、都度途中経過を公表しながら成果を積み上げていく。)</li> <li>・保証型監査は助言型監査との対比で語られるので、システム監査における保証型監査、助言型監査の発生経緯と今後の両者の普及を展望し、必要であればシステム監査全体像の再整理、システム監査の定義の見直しにも検討の範囲を広げる。</li> <li>・会計監査の分野で蓄積された監査の知見を十分参考にするが、会計監査とシステム監査との違い(情報システムの特性など)にも十分注意を払っていく。</li> </ul>
<p><b>6. システム監査基準を有効活用するための情報提供機能の強化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出版以外の提供方法としては、協会HP上での提供が最もローコストで簡便な方法である。なお、課題として次のことがある。 提供先を会員限定とするか、会員以外の一般にも公開するか基準 会員限定とするためには、会員認証等の機能の作り込みが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「システム管理基準 for オフショア開発」をシステム監査基準研究会内のレビュー&amp;修正後、当協会HP上に公開する(詳細方式は未決定)</li> <li>・その他21年度中の成果物についても提供を検討する。</li> </ul>
<p><b>7. システム管理基準のシステム現場への普及</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・J-SOX対応以外において、システム管理基準を普及させるために、COBIT 4.1とシステム管理基準のマッピング作業中</li> <li>・その他、システム監査基準研究会のこれまでの検討の中で、次のような意見が出ている。 システム管理基準を活用した事例の提供 他の団体(令:IT経営協議会、ベンダー/ユーザー団体等)への働きかけも重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・COBIT 4.1とシステム管理基準のマッピングを完成させる。</li> <li>・他団体との連携の一つとして、日本セキュリティ監査協会の要職を務められている方との意見交換を、2009年1月に実施する。</li> <li>・その他、システム監査基準研究会内で検討を深めたうえで行動に繋げたい。</li> </ul>
<p><b>提言</b></p>	<p><b>取組み状況</b></p>	<p><b>今後の取組み計画</b></p>
<p><b>8. システム監査の視点の整理、特に有効性</b></p>	<p>各団体等では出されている見解を収集・整理した。</p>	<p>今までの検討を基に、システム監査基準研究会としてのシステム監査の視点を定義づけていく。</p>

<p>9. システム 監査人の人 材像の明確 化と育成策 の提示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組み課題は、1. システム監査人の役割、要求されるスキルなどについて検討し見解をまとめる、2. 公認システム監査人（CSA）制度ならびに CSA 認定取得者の価値を高めるための CSA 利用推進活動の目的・位置づけをその整理と併せてとりまとめる、という大きく2点がある。</li> <li>・ 今年度は特に2. CSA 利用推進活動に注力し、CSA 認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイス TO フェイスの意見交換の場として、“CSA フォーラム”を新規に立ち上げた。CSA (ASA 含む) 認定取得者全員に案内を出し、事前登録者約百数十名の登録があり、関心の高さがうかがえた。CSA フォーラム事前登録者に対して、9月と11月に“CSA フォーラム”を開催し、各回とも30数名の参加者を得ることができた。</li> <li>・ 第1回は「CSA の成功法則」（竹下氏報告）として、CSA の活動をもとに新しいタイプの監査人（歓びを作る人）として稼働を始めた“目標達成と喜業の秘訣”についての報告と意見交換を行った。第2回は「CSA に求められる新たな役割」（三谷氏報告）として、企業が健全な IT マネジメントを行なうためには、“効果創出”“コスト適正化”“リスク低減”、3つの側面から従来のシステム監査の枠を超えた CSA が担うべき役割についての報告と意見交換を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2. CSA 利用推進活動として引き続き“CSA フォーラム”を2ヶ月に一度ペースで開催していく。その中で、CSA 制度と CSA 認定取得者の価値を高めるための各種報告と議論、提言、成功事例の紹介等の活動を行っていく。併せて CSA 同士の相互交流の場を通して、監査人としての育成を図っていく。</li> <li>・ 1. システム監査人の役割、要求されるスキルなどの見解のまとめは、“CSA フォーラム”における検討テーマとして取り上げ、取組み課題を進める。さらに、情報処理試験において期待されるシステム監査人としての役割、スキルを当協会として整理した上で、試験合格者等の高度なシステム監査人について進むべき人材像の明確化と具体的な育成策の提示を目指していく。</li> </ul>
<p>10. 当協会と 関連官 庁・機関・ 団体との 連携強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度は、経済産業省とは、本部主催 20 周年記念講演会来賓、月例研究会講師招聘等を通じ、コミュニケーションを確保してきた。また、20 周年記念提言に関連するアンケートについても、関係諸団体へ回答を依頼する等を実施し、連携を進めつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携対象となる具体的な関係諸団体について、事務局を中心として再整理を行っていく</li> <li>・ 今後、各提言に関する検討作業の状況と必要に応じ、関係諸団体との意見交換などを行っていく必要がある。</li> </ul>

●アンケートにおける SAAJ への要望事項への対応について

要望事項	取組み状況	今後の取組み計画
1. システム監査の意義を広くアピールし、システム監査の普及啓発に繋げて欲しい。	提言 2 への取組みの中で対応	
2. システム監査の法制化、制度化に積極的に取り組んで欲しい。	提言 4 への取組みの中で対応	
3. 他団体との交流を促進して欲しい。	提言 10 への取組みの中で対応	
4. 研究会活動・広報活動の充実を期待したい。	提言 1 への取組みの中で対応	
5. 当協会の知名度・認知度を向上させて欲しい。	提言 1 への取組みの中で対応	
6. 会員へのシステム監査に関する活動の機会を提供して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例研究会 「システム監査実務・実践セミナー」の実施</li> <li>「内部統制監査セミナー」の実施</li> <li>・推薦委員会 推薦制度に従った外部からの推薦依頼に対する対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認システム監査人認定制度の一環として、システム監査未経験者を対象に「システム監査実務・実践セミナー」を最低 2 回/年定期開催していく。</li> <li>・また、現状ニーズが高いと考えられる J-SOX に基づき構築、整備された IT 内部統制を、独立した立場で客観的に評価する監査人育成を目的とした「内部統制監査セミナー」も継続して定期開催していく。</li> </ul>
7. 政府機関との連携を強化して欲しい。	提言 10 への取組みの中で対応	
8. システム監査人の地位・ステータス向上に取り組んで欲しい。	提言 9 への取組みの中で対応	
9. システム監査人の育成・教育活動を強化して欲しい。	提言 9 への取組みの中で対応	
10. 会員同士の交流の場を増やして欲しい。	提言 1 への取組みの中で対応	
11. 当協会の体制強化を図って欲しい。	平成 20 年度は事務局長の 2 名体制として事務局体制の強化を図ったが、増大する事務局作業の対応に追いつくのとどまった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 20 年末に新会員システム切り替えを実施し、これと連動して事務局作業の効率化を図っていくことで会員サービスの充実を図っていきたいと考えている。</li> <li>・事務局の常駐化は理想であるが、経費との関係で専任者は現実的でないため、理事ができるだけ曜日をずらして事務局にでるなどの対応をしている。</li> </ul>